〔学校給食需要に応えるための主要野菜の品種特性把握と出荷拡大技術〕

夏まきニンジンの株間と収穫日が規格株収量と根重に及ぼす影響（2020 年）

海保富士男・沼尻勝人*・遠藤拓弥*2・徳田真帆

（園芸技術科）*現調整課・*2 現小笠原農セ

【要　約】８月下旬播種の夏まきニンジンで年明け以降の収穫において根重 200ｇ以上の給食規格株を得るには，株間 12cm 以上必要である。品種としては，年明け以降でも根重が増加し，１月下旬以後３月まで規格株収量が高くなる「彩誉」が有望である。

【目　的】

昨年，８月下旬播種の夏まきニンジンにおいて株間９cm で品種の検討をしたが，ほとんどの品種で給食用規格の根重 200ｇ以上に達するものがなかった。そこで，年明けに規格株を多く得るため，株間や収穫日（栽培日数）が及ぼす影響を明らかにする。

【方　法】

試験１「向陽二号」を供試し，2020 年８月 25 日に 70 ㎝幅ベッドに条間 15 ㎝間隔の４条に株間９，10.5，12，13.5cm 間隔で播種した。2021 年１月５日（播種後 133 日）と２月 16 日（175 日）に収穫した。試験２「彩誉」以下４品種を供試し，８月 25 日に株間９および 12cm で播種した。１月７日（播種後 135 日），1 月 27 日（155 日），２月 16 日（175 日），３月３日（190 日）に収穫した。試験１，２ともに，施肥は成分量でＮ:P_2O_5:K_2O =16.3:22.7:15.8 kg/10ａを施用し，調査は 20～25 株を収穫し根重などを測定した。

【成果の概要】

１．試験１ 年明け２回の収穫とも 200ｇ以上の規格株の収穫株率（規格株数/収穫株数）と収穫本数は，株間が広くなると多くなった（図１）。また，1 月５日収穫に対し，２月 16 日収穫のほうがいずれの株間でも収穫株率および収穫本数が多くなった。

２．総収量は，1 月５日と２月 16 日で株間による差があまりなかった（図２）。1 月５日の規格株収量の割合は株間が広い区ほど多かったが，２月 16 日では規格株収量が増え，その差が縮まった。２月 16 日で規格株収量が多かった株間 13.5cm で総収量がやや少なかった。規格株および規格外株の根重はどちらの収穫期でも株間による差が小さかった。

３．試験２ 昨年の試験で比較的に特性が優れた４品種を供試したが，株間９cm ではいずれの品種も規格株率が 50%に届かなかった（図３）。規格株収量は２月 16 日の「彩誉」で５t/10ａとなったが，「彩誉」以外の品種の株間９cm では４t/10ａに満たなかった。

４．株間 12cm では，「彩誉」は２月中旬まで根重，規格株率が増加し，１月下旬で規格株率 60%，規格株収量６t/10ａを越えた（図３Ａ）。「愛紅」は，年明けの１月上旬で根重 200ｇを越えたが以後増加せず，規格株率や収量も増加しなかった（図２Ｂ）。「クリスティーヌ」では根重，「グランプリ」では規格株率の増加が鈍く，２月中旬まで規格株収量が増えず，３月に５および６t/10ａに達した（図３Ｃ，Ｄ）。

【残された課題・成果の活用・留意点】

１．株間を広くすると規格株収量は増えるが，必ずしも総収量が増えるとは限らない。

２．１月上旬の根重や規格株率が低いので，根重増加のために播種期を早めて検討する。

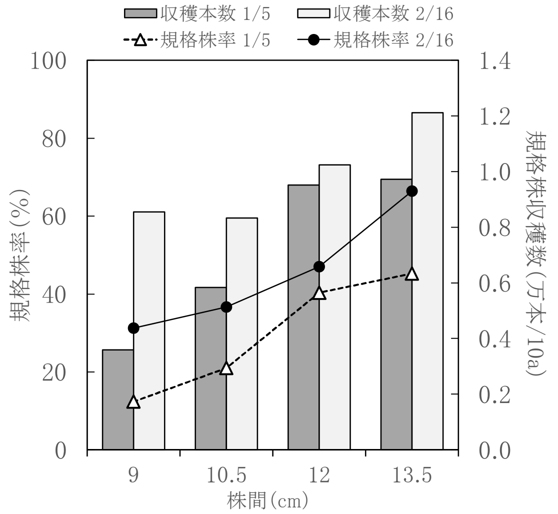

図1　規格株率と規格品株収穫数(向陽二号)
規格株率(%)＝200g以上本数(本)/収穫本数(本)×100
規格物収穫本数(本/10a)＝栽植本数(本/10a)
×株立率(%)×規格株率(%)

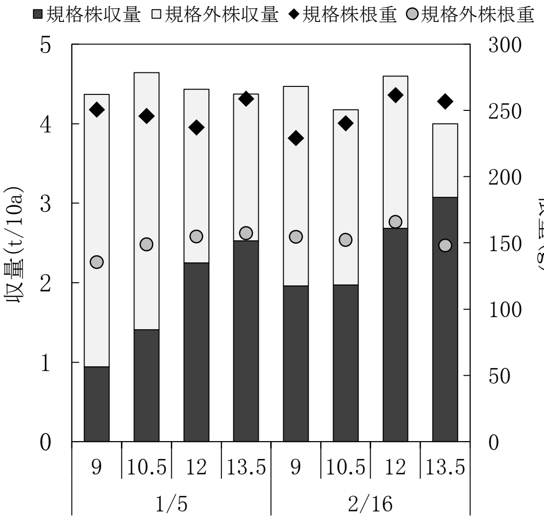

図2　株間が収量および根重に及ぼす影響
(向陽二号)
規格品:200g以上の可販品

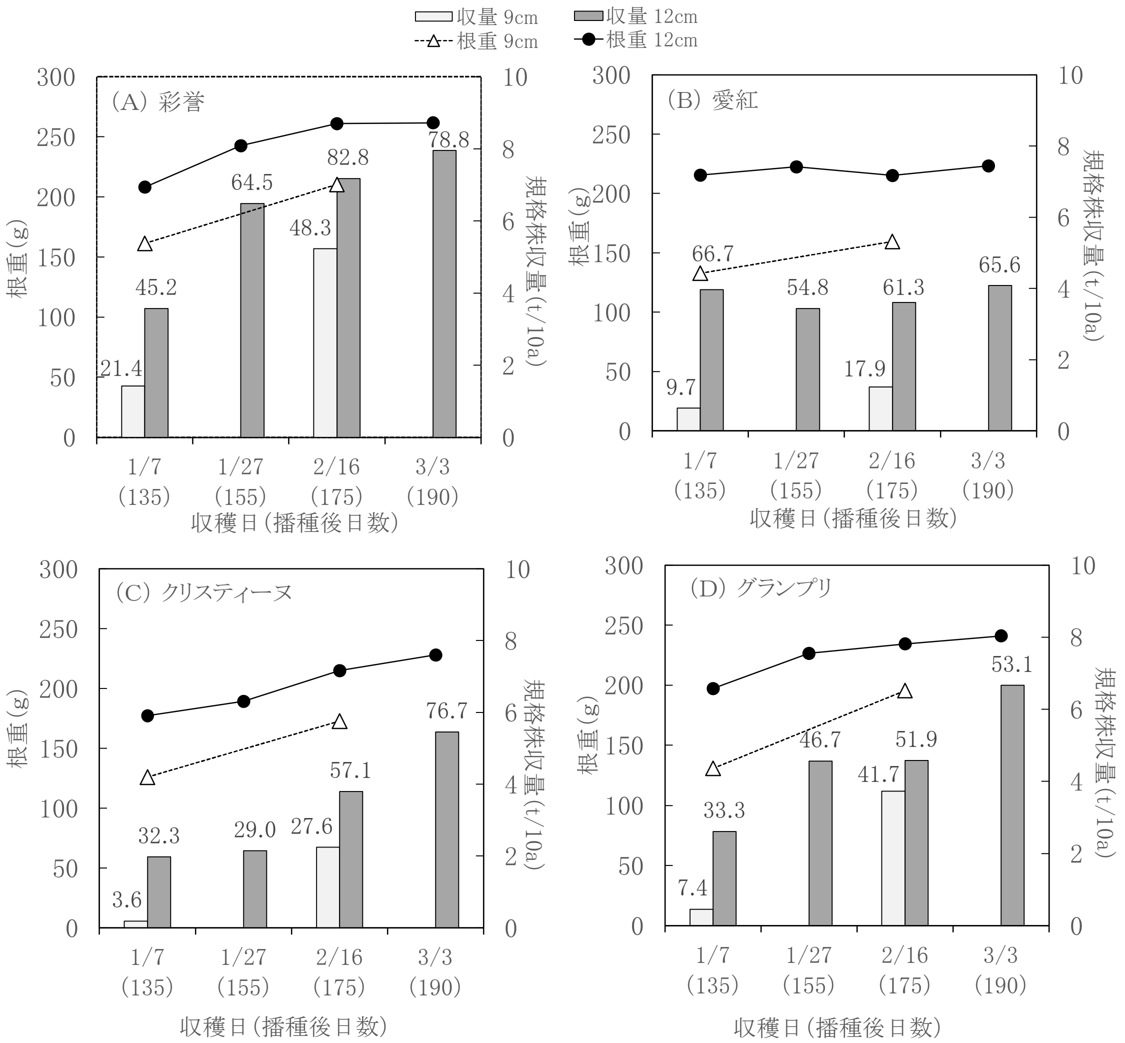

図3　根重，規格株率，規格株収量の推移
棒の上の数値は規格株率(%)
＝規格株本数(本)/収穫本数(本)×100